

かんきつのポット育苗に適した用土と肥料							
<p>〔要約〕 <u>ポット</u>を利用した<u>かんきつ苗木生産</u>には、<u>UCソイル</u>を用土に用いると枝梢の伸びが良く、苗木重も重くなる。化成肥料の施用は、成分量が有機質主体肥料と同量であれば枝梢の伸びが優れる。</p>							
果樹苗木分場・無病苗育成研究室						連絡先	09437-2-2243
部会名	園芸	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

かんきつ苗木生産は、台木の定植、育成、接ぎ木、接ぎ木後の生育管理と同一圃場で2カ年かかる。連年、同一圃場での苗木の生産は生育不良や土壌病害等による被害が生じやすい。また、苗圃としては排水良好で肥沃な土壌が必要であるが、年々確保が困難な状況下にある。

この対策としてポットの利用が考えられるので、かんきつ苗木生産でのポット利用技術確立のため、育苗に適した用土と肥料を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- ① UCソイルを用土に使用するとカラタチ台木の肥大が良く、接ぎ木後の苗木の枝梢の伸び、全体重が増加する（表1）。
- ② 角ポットは丸ポットに比べ、新梢伸長量が劣るものの、苗木全体重の中で台木部割合がやや多くなる（表1）。
- ③ 化成肥料は有機質主体や液肥に比較して、台木の肥大に差はないものの、接ぎ木後の苗木の枝梢の伸長や全体重は優れる（表2）。
- ④ ポットで育成したかんきつ苗木を20kgコンテナに定植すると、露地で育成した苗に比べ生育が優れる（データ略）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ① ポットで育成したかんきつ苗木は、周年供給できる。
- ② ポット苗は定植時の根部の損傷が少ないため、早期結実が求められるコンテナ等の根域制限栽培に良い。
- ③ 有機質主体肥料は緩効性であるため、成分量を多目に施用すれば化成肥料と同等の枝梢伸長が図れるものと推測される。

[具体的データ]

表1 容器、用土の違いがかんきつ苗木の生育に与える影響 (平成1年)

a用土	b容器	台木育成期		苗木育成期		
		c幹径	d肥大率	枝梢伸長量	苗木全体重	f台木部割合
		mm	%			
UCソイル	丸ポット	8.1	190	91.3	157	42.5
配合用土	〃	6.4	149	73.6	119	43.6
UCソイル	角ポット	7.2	171	82.9	137	45.2

- 注) ①昭和63年6月、カラタチをポットに定植、翌年4月興津早生を接ぎ木した。
 ② a) のUCソイルは容量比で川砂50%、ピートモス30%、パーライト20%に配合し過磷酸石灰等を加えた用土、配合用土は真砂土50%、與人堆肥35%、川砂15%に配合した用土を使用した。
 ③ b) の丸ポットは径15cm×深20cm、角ポットは辺10cm×深35cmで、いずれも容量は2Lとした。
 ④ c) は昭和63年12月に調査、d) はc) を6月時点の幹径を100として算出した。
 e) は平成1年12月に調査した。f) は苗木全体重に占める重量比とした。
 ⑤ 台木育成期の肥料は、1ポット当たり油粕5gを10月と3月に施用した。苗木育成期は1ポット当たり硫安7g、熔燐6g、硫酸カリ3gを5~10月に6回分施した。

表2 肥料の違いがかんきつ苗木の生育に与える影響 (平成2年)

a肥料	分施回数		台木育成期		苗木育成期		
	台木	苗木	b幹径	c肥大率	枝梢伸長量	苗木全体重	e台木部割合
	回	回	mm	%			
有機質主体	4	6	9.0	149	65.3	117	54.1
化成肥料	4	6	9.0	148	70.0	129	53.6
液肥	7	11	9.2	141	63.4	116	53.1

- 注) ①平成1年5月カラタチを丸ポットに定植、翌年4月興津早生を接ぎ木した。用土はUCソイルを使用した。
 ② a) の有機質主体は油粕、骨粉、硫酸カリ、化成肥料は硫安、熔燐、硫酸カリ、液肥はバイオヒット1、2号、硫酸カリを10a当たり年間成分量で台木育成期は窒素：燐酸：カリを30kg：27kg：20kgに、苗木育成期は30kg：22kg：30kgに調整し施用した。
 ③ b) は平成1年12月に調査、c) はb) を6月時点の幹径を100として算出した。
 d) は平成2年12月に調査した。e) は苗木全体重に占める重量比とした。

[その他]

研究課題名：無毒化苗木新技術の開発

予算区分：経常

研究期間：平成4年度 (昭和63~平成4年)

研究担当者：堀江裕一郎、野口保弘、草野成夫

発表論文等：昭和63~平成4年度果樹苗木分場試験成績書